

自分発見!

キャンパスを離れた学びの場で様々な体験をした杏林生たち。人との出会いと経験が、大学生活や進路について改めて考えるきっかけになったのでは。4人の学生の感想を紹介します。

プロの仕事に触れる オリオン書房インターンシップ

総合政策学部企業経営学科3年 荒川直樹

以前から小売業に興味があり、オリオン書房ノルテ店で2週間の研修をさせていただきました。書店では、レジ業務やレファレンスなど店頭での仕事をはじめ、雑誌やコミックの付録付け、「絵本ビビ誕生秘話とブルーベリー試食会」というイベントの手伝いなど様々な仕事を順番に体験させていただきました。

書店で働くスタッフは本好きの方ばかりで、作家や作品に対する知識の豊富さに驚きました。皆さんが楽しそうに生き生きと仕事をされている姿を見て、私も仕事をする事への喜びを感じることができました。



私は、販売士試験3級を取得しましたが、試験対策で勉強したことが実際の小売の現場で活かせることもあれば、まったく違うこともあるなど、とてもよい勉強になりました。

仕事に対する姿勢と責任を教わる 六本木ヒルズクラブインターンシップ

外国語学部英語学科3年 濱野由梨



六本木にある会員制クラブ、六本木ヒルズクラブでインターンシップをさせていただきました。クラブの運営はハイアットグループが行っているため、高級ホテルと同等のおもてなしをすることが求められています。クラブには、毎日たくさんの方が訪れます。

難病のことも支援全国ネットワーク主催・サマーキャンプ 「がんばれ共和国」での出会いで学んだこと

保健学部看護学科4年 松本奈々



私は今まで「ありがとう」の気持ちで、体の全てを使い、伝えられたことがあったのだろうか。へ友だちとくろくくというテーマのもと、難病

児とご家族、ボランティアが参加して行われた2泊3日のサマーキャンプに昨年に続き参加しました。

そこで私は、言葉話すことのできない17歳の女の子に出会いました。彼女は疲れやすいはずなのに、動きづらい手や目を動かして、気持ちを伝えてくれます。最初は意思伝達がうまく出来ていない不安で、遠目に話しかけていた私も、時間が経つにつれ、彼女の手を握る、動作を良く見るなどの工夫をし、コミュニケーションが取れるようになりました。お母さんの通訳のおかげもあり、最終日、彼女が「本当にありがとう。あなたに出会えて良かった。」と何度も、何度も、一生懸命に伝えてくれた姿が、今でも忘れられません。自分の気持ちを伝える方法は、言葉だけではないと改めて実感した出会いでした。これからも出会いや人、一つ一つに感謝の気持ちを持ち、その気持ちを相手に伝えていきたいと思えます。そして、温かみのある看護師を目指したいと思えます。

私の実習先は、ヒルズクラブの中にあるメンバーで、落ち着いて食事ができる場所です。10日間の実習で、学生と社会人との違いや、与えられた仕事を最後までやり遂げることの大切さを学びました。今まで何かと中途半端に過ぎてきた私には少し厳しくもありました。アルバイトで通用していたことが、インターンシップでは通用しないことも知りました。仕事をする事の厳しさや責任を学ばせていただく機会になりました。この経験をこれからの就職活動に役立てたいと思えます。

米国エバンストンでの クリニカルクラークシップ

医学部医学科6年 新井信晃



5月の1ヶ月間、イリノイ州エバンストンの中規模病院で低侵襲手術を中心に院外実習を行いました。外科チームの一員として朝6時からの回診、手術、外来見学、夜はオンコールの先生について緊急手術にも立ち合わせて頂きました。

米国の医学生は基礎医学を徹底的に勉強し、リサーチ(論文作成)も積極的に取り組むなど、日本の医学生とは一味違う気合を感じました。6年のカリキュラムの間には脱落者も多いとのことでしたが、その凄まじい競争を戦い抜き、医師となった指導医やフェローの先生方は、ヴァイタリティ溢れる方ばかりでした。手術室には全身麻酔をかけられる看護師や簡単な手術なら執刀し、術野に入って外科医の助手をするアシスタント専門職がいるなど、驚くことばかりでした。Robotic Surgeryの見学や現地の医学生に交じって患者様のプレゼンテーションをする機会にも恵まれました。また、震災直後だったため、自己紹介の度に深い同情と温かい激励の言葉を頂いたことも心に残りました。医療資源が豊かで、充実した研修システムが構築された米国は研修するには非常に魅力的な場所です。しかし、日本の医療現場のように限りある資源の中、知恵を絞り、足と頭を動かして、忙しく勉強に研修に打ち込むことも大切だと考えます。米国医療の一端に触れたからこそ実感できる日本の素晴らしさを噛み締め、一生懸命勉強して、米国人に負けない外科医になりたいと思えます。



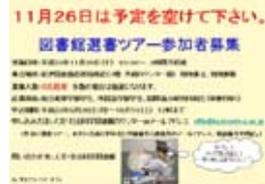
看護専門学校
卒業生の赤尾さん
「国際看護」について講義



看護専門学校を卒業し、現在カンボジアのアンコールワット小児病院で看護師をする赤尾和美さんが9月28日、「国際看護」に関する講義を2年生対象に行いました。

のきつかけをつくるのが目的です。陸前高田市と大船渡市を視察しましたが、

人文・社会科学図書館
選書ツアー-参加者募集!



第3回選書ツアーを11月26日に実施します。申込み等詳細は館内ポスターやユニパをご覧ください。

この活動に参加できて本当に良かったです。

キャンパス短信

- 関東大学バドミントン 秋期リーグ戦 (9/10~19)
 - ・女子4部Cリーグ優勝、入替戦結果4部残留。
 - ・男子5部Aリーグ6位、入替戦結果6部へ。
- 関東女子学生剣道優勝大会 (9/17)
 - ・2回戦進出
- 東京新大学野球連盟 秋期リーグ (9/1~)
 - ・勝点2、5勝4敗(10/5現在)
 - 最終戦は10/8、9対流通経済大学

編集長：学生支援センター長 黒田有子 (外国語学部教授)
事務局：4学部・看護専門学校事務、入学C、CSC、広報・企画調査室
*皆さんの声をお聞かせください。
0422 (44) 0611 koho@ks.kyorin-u.ac.jp

学生ボランティアを通して

外国語学部観光交流文化学科2年 小泉健

岩手県立大学の学生が中心となり活動しているボランティア「いわてGINCANETプロジェクト」に参加してきました。

現地では「お茶っこサロン」という活動をしました。仮設住宅の一部屋を借りて、お年寄りの方と話をしたり、子供たちと遊んだりするもので、住民同士のコミュニケーションのきつかけをつくるのが目的です。



報告
被災地支援ボランティア



いま、できることを精一杯に
大学院国際協力研究科
国際言語コミュニケーション専攻 太田静恵
8月29~31日まで宮城県仙台市、石巻市でのボランティアに参加しました。被災した方の家の草刈りが主な活動で、総勢21名が1日がかりで行いました。身長よりも長いその草は、津波で土壌にしみ込んだ海水の塩分を根から吸収してくれるそうです。雑草の意外な役割に感動しつつ、皆でよい汗を流しました。津波が起きた海やその周辺の様子も見学させて頂きました。「百聞は一見に如かず」とは、まさにこのことを言うのだなという凄まじさ

でした。天候に恵まれ、澄み切った青空でしたが、辺りの雰囲気は重く、胸が締め付けられました。元から更地のようには見えな土地は、数十件の家々が立ち並ぶ住宅街であつたと伺い、足が震えました。被災地では人々がとても明るく暮らしていました。素晴らしいと思いましたが、私たちには被災した方々の心中を理解することはできません。心の傷が癒えるのに時間がかかる方も大勢いると思います。そんな方々に、ほんの小さな希望でも生まれるように私たちにできることを精一杯させて頂けたら良いのではないかと思います。

基礎学力とチャレンジする気持ちが大切
外国語学部・総合政策学部の1年生のクラスで学長講話



初年次教育の現場を把握し、さらに学習環境や学生生活について学生から直接話を聞こうと、9月28日(水)、跡見裕学長が外国語学部・総合政策学部の1年生のクラスを訪問しました。

各クラスに学長が贈った『つなみ被災地のこども80人の作文集』

学生がキャンパスライフに関する要望を提言
医学部生と学長の懇談会



右写真) 学生の要望を聞く左から松村謙児学生部長、跡見裕学長、渡邊卓教務部長
学生生活の充実やアメニティの改善を図るために毎年開かれている医学部生と学長の懇談会が9月26日(月)三鷹キャンパスで行われました。懇談会では講義や学習環境、留学制度に関する意見や要望が出されました。



風音さん(右)とユンイさん(前列右)とともに

付属病院で
癒しの風鈴コンサート

8月20日(土)に杏林大学病院外来棟ロビーにて、今年で3回目となる風鈴コンサート(演奏者・風音&ユンイ)を行いました。風音さんは世界で唯一の風鈴演奏家であり、現在、日本中でコンサートを開催している方です。来場いただいた患者さん達は、風鈴の音に耳を傾け、涼やかなひと時を過ごされているようでした。患者さんから入院生活がどのようなものであるかなどのお話を伺うこともあり、まだ病院で直接患者さんと接することがない私達にとつて、貴重な機会となっています。来年もぜひ開催したいと考えています。医学部医学科3年 稲葉史明、城野喬史